

豆類技術情報 No. 2

平成30年6月28日
JA大湊村営農支援課
大湊村豆類生産組合

大豆管理・雑草の除草について

本作大豆は6月上中旬に低温日が多かったため、発芽率が平年に比べ低く生育にばらつきが見られます。なお、条播圃場では今後、中耕・培土の管理作業（3回目目安）が必要となってきますので、つぎを参考にして実施してください。

1. 中耕・培土

中耕・培土の作業期間は降雨が続くことが多く、作業は遅れがちですが晴れ間をみてタイミング良く実施してください。

条播・散播とも排水の不十分な圃場については降雨後に茎疫病等の発生が懸念されますので、早急に明渠等による圃場排水に努めてください。また、生育不良で葉が黄化している場合には、N成分で2kgを目安に尿素による追肥を実施してください。

今後は雑草の発生が懸念されますので、発生後の茎葉処理として、つぎの薬剤で除草に努めてください。

1. ヒエの防除

—ナブ乳剤—

500倍液(展着剤「アプローチB-1」を100cc混用)を100ℓ/10a散布してください。水100ℓに対しナブ乳剤200cc使用。

—ポルトフロアブル—

水100ℓに対してポルトフロアブル200～300cc(10a当り)を使用してください。(展着剤不要)

※上記の薬剤は周辺に水稻などのイネ科作物がある場合、付着すると薬害が発生しますので、水稻への飛散は特に注意します。

2. 広葉雑草の防除

—大豆バサグラン液剤—

水100ℓ に対し大豆バサグラン液剤100～150cc（10a 当たり）を使用してください。

大豆バサグラン液剤使用の注意点

- ①大豆の本葉が3葉～4葉期以降から6葉期（収穫45日前まで）。
- ②イネ科雑草が混在している圃場では、ヒエ剤との体系で処理してください。
- ③雑草の葉令が進むにつれ効果が劣り、使用時期が早いと後発の雑草が発生してくるので、広葉雑草の3～6葉期までに処理してください。

3. ネキリムシ類の防除

1) 条播の場合は**培土の前にカルホス微粒剤F**（3～4kg/10a）を散布してください。

2) 散播や土中混和が困難な場合は、株元地表に**ネキリエースK**を3kg/10a 散布してください。

※日中よりもネキリムシ類が活動してくる夕方に散布してください。また、降雨が続くと効果が落ちるので注意してください。